

2008 年度前期自治委員会総会決議

大阪府立大学中百舌鳥キャンパス学生自治会中央執行委員会

1. はじめに

生命環境科学研究科獣医学専攻のりんくうキャンパス移転が来年度に控える中、大阪府によって財政再建案が打ち出されました。この案で挙げられている財政再建のための見直しには、大阪府立大学への運営費交付金も含まれており、大学法人化の時と同様に、学生の環境が急激に変化し得る状況です。学生はこのような現状について知り、意見を発していくべきであると言えるでしょう。

大阪府立大学中百舌鳥キャンパス学生自治会（以下、学生自治会）は、これまで学生の意見を集め大学に伝えるなど、より良い学生生活の実現を目指して活動してきました。今後の学生生活がより充実したものとなるよう、これからの自治会活動についてともに考えていきましょう。

2. 活動報告・活動方針

学生自治会は、2007 年度後期自治委員会総会から現在に至るまで "**これまでの活動**" で示した活動を行ってきました。また、2008 年度後期自治委員会総会に至るまで "**これからの活動**" で示した活動を行っていきます。

【要望書交渉に関する活動】

・ **これまでの活動**

学生自治会は、学生がより良い学生生活を過ごせるように、毎年学生の意見や要望を大学に直接訴える要望書交渉という活動を行っています。昨年度の要望書には、学生が普段抱いている大学への意見や要望に加えて、りんくうキャンパスへの移転に関する要望も取り入れました。そして要望書を用いて、要望書交渉を1月9日（水）に行いました。交渉の場には学生センター長である石井副学長をはじめ、学生課の職員の方々に出席していただき、学生の要望を直接訴えました。この交渉の結果として、オープンスペース・サテライトホールの利用時間延長や、構内整備の実施などが実現しました。

また、要望書に掲載していない意見も学生の実情を表しているため、大学運営の参考にしてもらえるように、要望アンケートや意見箱などに寄せられた意見をそのまま掲載した意見集を作成し、大学や大阪府立大学生生活協同組合に提出しました。

要望書に対する回答は、大学からの回答と説明を学生が直接聞き、その場で疑問を解消することや、大学の実情を知った上で意見を発することで学生と大学の相互理解ができるように、公開形式で行いました。公開回答は5月13日（火）に行い、学生センター長を含む副学長3名をはじめ、理事や大学各課の代表にも出席していただきました。加えて、昨年度の卒業生も回答が見られるように、大学からの書面回答を学生自治会のホームページに掲載しました。

前回の公開回答では、時間の制限があったことや、質疑応答の際に質問者が回答について即座に再度質問することができなかったことから、大学と意見交換が十分にできていないといった問題点があったため、事前の調整にて大学に伝えました。その結果、質疑の時間を可能な限り多くとる、質疑応答の際に質問の回答が終了するまでマイクを渡しておくといった改善が見られました。また、参加者が少ないという問題があったため、これまで行っていなかった時間帯でもビラの配布を行うなど、情報宣伝方法の改良を行いました。しかし、今回も参加者が前回の61人から41人と減少したため、より一層情報宣伝を見直すべきであるという結果となりました。

公開回答については、参加できなかった学生もその内容を知ることができるように、自治会総合情報誌『NASCA vol.13 要望書回答号』を作成し、中百舌鳥キャンパスの全学生に配布しました。他にも、公開回答での感想文用紙に寄せられた質問は大学に伝えた上、大学から得られた回答は『NASCA』などを通じて発信します。

・これからの活動

学生生活をより良いものにする上で、学生が日頃抱く要望を大学へ訴え、それを実現させることは大変重要であると考えます。そこで、今年度も要望アンケートを通じて幅広く学生から要望を集め、それをまとめた要望書を用いて大学と要望書交渉を行っていきます。

今年の2月に大阪府知事が替わり、新しい大阪府知事の指示の下、大阪府の財政再建が推し進められています。この財政再建により、運営費交付金を出資している大阪府の情勢が変わり、学費や施設に関する大学の方針が変わる可能性は十分にあります。また、生命環境科学研究科獣医学専攻のりんくうキャンパス移転が来年度に控えており、この移転によって課外活動や施設、講義などに関する問題が生じることが考えられます。このように、大学や学生を取り巻く環境が変化することに伴って、学生が大学に対してこれまでとは異なる要望を抱くと考えられます。そこで学生自治会は、学費や施設、りんくうキャンパス移転に関する要望をはじめ、学生が日頃大学に対して抱く要望を調査するために、中百舌鳥キャンパスの全学生を対象に要望アンケートを実施します。さらに、学生の意見を幅広く取り入れるために、要望アンケートだけでなく、意見箱や学生自治会のホームページの掲示板などに寄せられた意見や要望などもまとめて、要望書を作成していきます。

また、授業料や入学金、制度に関することは、羽曳野キャンパスを含む大阪府立大学全体に関わってきます。そこで、羽曳野キャンパス学生自治会に要望アンケート実施の協力を求めています。また、要望書に説得力を持たせ、大学に要望の切実さを伝わりやすくするために、アンケートなどに寄せられた意見や要望に対する現状を調査し、まとめた要望書資料を作成し、要望書交渉の際に大学に提出していきます。

また、要望書は多くの学生の意見や要望を取り入れることでより充実したものになります。そこで、これからは、アンケートの配布、回収方法の改良や情報宣伝に力を入れ、これまで以上に多くの学生から意見や要望を集められるようにしていきます。

普段の学生生活において、学生が大学の実情を理解する機会が少なく、大学への要望が一方的になりがちです。そこで学生自治会は、要望書の回答を学生が聞き、大学の実情を理解した上で質問ができる公開形式は、大学と学生とが相互理解を深める上で大変有意義であると考え、これまで公開形式を採用してきました。しかし、“これまでの活動”でも述べたとおり、参加者が少ないことが問題点として残りました。これからは、回答の場について根本から見直し、より充実した回答の場を目指していきます。

【大阪府の財政再建に関する活動】

・これまでの活動

4月11日（金）に大阪府知事の指示の下、財政再建プログラム試案（以下、PT 試案）が発表されました。このPT 試案では、大阪府立大学に対する運営費交付金の13億円削減と入学金の増額が挙げられ、さらに授業料の増額が検討項目となっていました。また、削減の対象となっていたものには教員などの人件費や研究費なども入っており、経済的な負担が増加するだけでなく、学習環境も悪化するといった点で、学生が被る不利益は非常に大きいと考えられました。

平成17年度の法人化によって、大学は独自の裁量によって学費や入学金などを設定できるようになりました。しかし、大学の運営費の多くは大阪府からの運営費交付金で占められているため、大阪府の提示するPT 試案通りに決定がなされることが懸念されました。このPT 試案は6月の議会で成案されることとなっており、成案後に案の変更や撤回を求めることは困難であると考えました。また、昨年度の要望書より、学生は学費の増額を望んでいないと判断し、成案前の迅速な行動が必要であると考えました。そこで、中央執行委員会の承認に基づいて、大阪府大学教職員組合及び大阪女子大学教職員組合との連名で、大阪府知事宛にPT 試案の撤回を求める署名活動を行いました。

署名活動は5月13日（火）から28日（水）にかけて、大阪府立大学の構成員である学生と教職員全員を対象に行い、最終的に4532筆（内、学生3805筆）を集めました。集めた署名は、5月29日（木）に大阪府生活文化部に提出しました。

このPT 試案について、府で検討がなされた後、修正された案として6月5日（木）に財政再建プログラム案が発表されました。その案では、交付金の削減が13億円から10億円になり、入学金及び授業料の増額については、大学の自主性に任せるとの内容に変更されました。

・これからの活動

6月5日(木)に発表された財政再建プログラム案により、大阪府からの大阪府立大学に対する運営費交付金の10億円削減が計画されています。また、入学金や授業料の増額については大学の自主性に任せることとなりました。今後、財政再建プログラム案に基づいて予算編成が行われ、入学金や授業料の増額の可能性も十分にあります。過去には、4年前の大学法人化の際に学生に十分な説明がされないまま、年間1万5000円の授業料増額が行われました。そこで学生自治会は、今後学生に十分な説明がないままに入学金や授業料などの大幅な変更が行われないようにするため、運営費交付金が削減された場合の大学の対応について、十分な情報発信を学生に行うことを大学に求めています。また、学生がその変更に対してどのように考えているのかを知るために、要望アンケートや意見箱を通じて学生から意見を集め、大学に伝えていきます。

【りんくうキャンパス移転に関する活動】

・これまでの活動

平成21年度に、生命環境科学研究科獣医学専攻がりんくうキャンパスへと移転します。この移転に関して、これまで学生自治会はりんくうキャンパスで学ぶこととなる平成21年度以降の獣医学科2回生以上への対応について話し合ってきました。また、移転に際しては、学業や生活面のほかに、大学祭やクラブ活動などにも影響が出ることが考えられます。そこで、体育会や文化部連合をはじめとした学生団体とも学生団体連絡会議にて話し合いを行った上で、獣医学科の学生を対象にりんくうキャンパス移転に関するアンケートを実施し、122枚を集めました。その他にも、りんくうキャンパス移転に関する情報を『NASCA』に掲載しました。

・これからの活動

“これまでの活動”でも述べたとおり、来年度のりんくうキャンパス移転に関して、学生自治会では、平成21年度以降の獣医学科2回生以上への対応を話し合ってきました。また、移転に際して大学祭やクラブ活動などの課外活動に影響が出ることも考えられます。そこで、獣医学科の2回生以上の学生への対応については、アンケートの結果をもとに学生団体連絡会議の場にて他の学生団体と話し合いを行い、2008年度後期自治委員会総会の場にて示します。また、各学生団体のりんくうキャンパス移転に関する今後の動向を『NASCA』などを通じて発信していきます。加えて、今回のアンケートに寄せられた大学に対する意見、質問は大学に伝え、大学からの回答は、『NASCA』などを通じて発信していきます。

【大学新制度改善に向けての活動】

・これまでの活動

平成17年度に行われた大学法人化にともなって、CAP制やGPA、教養科目の抽選制などといった制度(以下、新制度)が導入されました。これらはFD(Faculty Development)という、教育の質の向上を目的とした組織的な取り組みの一環であり、大学の総合教育研究機構(以下、機構)という部署を中心として実施されています。

学生自治会は、新制度は授業と密接に関係しているため、その中に学生の意見を取り入れることで、より学生に有益な制度となると考え、機構との話し合いを行ってきました。今年度は新制度が導入されて4年目であり、3月には新制度が適用されてから最初の卒業生が出ることとなります。このことに合わせて、大学でも新制度についての検討が開始される時期であると考え、要望アンケートなどに寄せられた意見をもとに、CAP制、GPAに関してや授業アンケートについて、機構との話し合いを行いました。話し合いの内容については、『NASCA vol.13 要望書回答号』で学生に報告しました。

・これからの活動

“これまでの活動”でも述べたとおり、今年度は大学でも新制度についての検討が開始される時期と考え、新制度がより学生の意見を反映したものとなるように、要望アンケートや意見箱などに寄せられた意見を要望書交渉や機構との話し合いを通じて大学に伝えてきました。そこで、来年度の制度は学生の意見を十分反映したものに変更されると考えます。これからは、機構との話し合いを通じて来年度の制度についての情報を集め、『NASCA』を通じて発信していきます。また、学生から新制度についての意見が寄せられた場合、大学に伝えていきます。

【情報宣伝・収集活動】

・これまでの活動

学生自治会は、学生全員とともに、学生生活をより良いものにするために活動しています。そして、学生自治会の活動は、学生の積極的な参加によって、より学生の声を反映したものとなります。そこで学生自治会は、学生自治会の活動を学生に知ってもらい、活動について考え、意見を発してもらうために情報宣伝、収集活動を行ってきました。

これまで学生自治会は、情報宣伝活動として、学生自治会の行う活動についての情報を掲載した自治会総合情報誌『NASCA』を発行し、中百舌鳥キャンパスの全学生に配布しました。また、月ごとに学生自治会がどのような活動を行っているのかを載せた活動紹介ポスター『今月の自治会』や、学生に有益な情報を集め、迅速に発信していく自治会新聞『From J』を、A9棟（工学部5号館）横の中百舌鳥キャンパス学生自治会掲示板や、構内各所の学生専用掲示板に掲示しました。この『From J』に掲載する情報は、「学生センターとの話し合い」などで収集しました。その他にも、立て看板やビラ、ポスター、横断幕、B12棟（学生会館）1階の掲示板装飾、昼の情報宣伝、ホームページなどの情報宣伝手段を用いて、自治会活動の情報宣伝を行ってきました。

さらに学生自治会は、情報収集活動として、日常的に学生の意見を集め、学生自治会の活動に反映できるようにするため、構内2箇所意見箱を、ホームページに掲示板を設置しています。意見箱やホームページの掲示板に寄せられた意見については、内容に応じて学生自治会での検討を行い、その上で活動に反映させる、大学や大阪府立大学生協同組合に意見を伝えるなどを行いました。これらの意見に対する回答は、意見箱付近に設置している掲示板へ掲示し、また『NASCA』やホームページにも掲載しました。

・これからの活動

学生自治会は、より良い学生生活の実現を目指して、学生とともに活動しています。学生から意見を集めずに自治会役員だけで活動しても、偏った活動になってしまい、より良い学生生活を実現することはできません。そのため、学生が自治会活動に参加し、積極的に意見を発することで、初めてより良い学生生活を実現することができます。そこで、学生に自治会活動について興味を持ってもらい、積極的に自治会活動に参加してもらえるように、引き続き情報宣伝を行うとともに、今ある情報宣伝手段を工夫する、新しい情報宣伝手段を模索するなどして、情報宣伝に一層力を入れていきます。

また、学生が日常的に抱えている意見を集めるため、意見箱やホームページに掲示板を設置しています。寄せられた意見は、学生自治会で検討し、活動に反映させていきます。また、意見に対する学生自治会の回答は、意見箱付近に設置している掲示板に掲示する、『NASCA』やホームページに掲載して学生に伝えます。

【学生団体連絡会議】

・これまでの活動

大阪府立大学に存在する学生団体は、学生団体間で意見、情報交換を行い、単独の団体では解決の難しい問題に対処するために、月に一度、学生団体連絡会議を行ってきました。

新入生歓迎時期には、毎年クラブ、サークルなど多くの団体が学内で勧誘活動を行います。しかし、度の過ぎた勧誘を行う団体も存在し、大学行事に支障をきたすなど、新入生や大学にとって迷惑となることも予想されました。そこで、この会議を通じて新入生歓迎時期に関する規定を取り決め、各団体に徹底するように促しました。

また、【りんくうキャンパス移転に関する活動】でも述べたように、この場で生命環境科学研究科獣医学専攻のりんくうキャンパス移転に際して、りんくうキャンパスにおける課外活動について話し合いました。

昨年11月の学生団体連絡会議をもって発足した第26回全学新歓実行委員会は、「新たに大阪府立大学に入学してくる学生が抱える不安を解消し、新しい環境に居場所を見出せるよう、精神面や情報面で支える事で、新入生が円滑に大学生活を始められるようにすること」を目的に、講義紹介冊子の作成や、新入生歓迎企画を実施しました。学生自治会は、活動の場として学生自治会室を提供する、実行委員として役員が参加するなどの形で協力しました。

さらに、「学生と地域の方々が無難に参加でき、多くの人に楽しんでもらえる地域に根ざした夏祭りとする」ことを目的に、4月の学生団体連絡会議にて、第35回七夕祭実行委員会が発足しました。

その他にも、学生団体は大学との相互理解を深め、大学と協力して活動を行っていくために、月に一度、「学生センターとの話し合い」を行ってきました。この話し合いの中で学部長連絡会議、教育研究会議に関する報告を受け、意見や情報の交換を行って大学の状況を知るとともに、学生の意見を伝えました。

・これからの活動

引き続き、月に一度学生団体連絡会議を行い、学生団体間の意見、情報交換などを行うとともに、1つの学生団体だけでは解決することが困難な問題の解決を目指していきます。

“これまでの活動”でも述べたとおり、生命環境科学研究科獣医学専攻のりんくうキャンパス移転により、大学祭やクラブ活動などの課外活動に影響があると考えられます。そこで獣医学科2回生以上の学生への対応について、この場での学生団体との話し合いを通じて検討していきます。

4月の学生団体連絡会議をもって第35回七夕祭実行委員会が発足しました。実行委員会では6月27日(金)の第35回七夕祭開催に向けて活動しています。学生自治会は、学生と地域住民が交流できる七夕祭が大いに盛り上がるものになるように、学生自治会室を活動場所として提供する、実行委員として自治会役員が参加するなど協力していきます。

また、学生団体連絡会議の構成団体は、引き続き月に一度の「学生センターとの話し合い」を行い、大学と意見や情報を交換していきます。さらに、この場で収集した情報は、『NASCA』などを通じて発信していきます。

【立て看板管理局】

・これまでの活動

大阪府立大学において、立て看板はその大きさから大変有効な情報宣伝手段と言えます。しかし、過去には立て看板の扱い方を誤り、重大な事故につながってしまったこともあるため、管理や運用は十分に注意して行われなければなりません。そこで、立て看板が安全に扱われるように、学生自治会、友好祭実行委員会、白鷺祭実行委員会の3団体は立て看板管理局を設置し、立て看板の管理と運用を行っています。立て看板管理局は、立て看板を貸し出す、強風時に立て看板を倒すなど、立て看板の管理を行うとともに、利用団体や利用者に注意を促してきました。加えて、ステージバックという大学祭のステージで使用される大きな看板も、過去に風の影響で倒れたことがあるため、立て看板管理局で管理を行い、利用者には厳重に注意を促しました。

新入生歓迎時期には、多くのクラブやサークルが勧誘活動として立て看板を設置するため、危険な状態となります。そこで、立て看板管理局では立て看板の利用団体を対象とした場所割り会議を行い、新入生歓迎時期における設置場所の割り振りと、立て看板の利用に関する注意を行いました。

第47回友好祭本祭典では、通常とは異なる場所に多くの立て看板が立つことに加え、立て看板やステージバックの危険性を知らない人も多数来訪するため、一層注意することが必要であると判断しました。そこで、管理団体で協力して立て看板やステージバックの見回りを行う、立て看板の周りに立ち入り禁止テープを張り、来訪者が近づかないようにする、フリーマーケットの出展者に立て看板に関する注意事項を載せたビラを配るなどの対策を行いました。

・これからの活動

“これまでの活動”でも述べたとおり、立て看板やステージバックは強風による影響を受けやすく、取り扱い方を誤ると大変危険です。そこで立て看板管理局では、引き続き立て看板やステージバックを貸し出す、強風時に倒すなど、立て看板やステージバックの管理を行うとともに、立て看板やステージバックを貸し出す際に利用団体に取り扱いの注意を促していきます。また、立て看板管理局では、管理団体内の立て看板やステージバックの管理意識を高めることを目的に講習会を開いていきます。その他にも、白鷺祭本祭典の際に、構成団体で協力して立て看板やステージバックの見回りを行い、引き続き立て看板やステージバックの管理と運用を徹底していきます。

【大型 PA 再購入実行委員会】

・これまでの活動

大型音響機器（以下、大型 PA）は、大学祭をはじめとした課外活動や広範囲の情報宣伝などを学内で行うために欠かせないものです。しかし、大型 PA は老朽化や消耗していくため、継続して使用していくには、定期的に再購入を行う必要があります。そこで、大型 PA 再購入実行委員会は、大型 PA の再購入を行うことで、大学内の文化的発展に努めることを目的として活動を行っています。この大型 PA 再購入実行委員会は、学生自治会、友好祭実行委員会、白鷺祭実行委員会、生協学生委員会、白鷺音響企画共同体 S. T. A. F. -1、体育会、文化部連合の 7 団体で構成されています。大型 PA 再購入実行委員会では、第 3 期再購入に向けて積み立てを行ってきました。

また、平成 22 年度の第 3 期再購入が問題なく行えるように月に一度定例会を行い、機材の現状確認と、第 3 期に再購入する必要がある大型 PA の選定を行いました。

・これからの活動

大型 PA 再購入実行委員会では、引き続き、第 3 期再購入が問題なく行えるように、月に一度定例会を行い、機器の現状を確認する、再購入する機器を選定するなどして再購入に向けて準備していきます。

また、第 3 期再購入までに機材の故障が起これ、修理や新しい機材の購入が必要になる可能性があります。そのような場合には、大型 PA 再購入実行委員会の繰越金を使用する、後援会に援助を求めるなど、柔軟かつ早急に対策を講じていきます。

【全日本学生自治会総連合】

・これまでの活動

全日本学生自治会総連合（以下、全学連）は全国の学生同士の交流と、学生の要望実現を目指して活動を行っている団体です。全学連への加盟については学生に十分な情報公開を行い、学生から意見を集めた上で検討する必要があるという考えから、学生自治会は全学連への加盟を保留しています。

また、学生自治会は、3 月 4 日（火）から 6 日（木）にかけて、全学連の情報収集のため、全学連の活動である「第 59 回全日本学生自治会総連合定期全国大会」に参加しました。この大会では、決議案の提案とその内容に対して、全国の学生自治会同士で意見交換が行われ、様々な大学の学生自治会と交流ができました。しかし、時間が少なかったことで活動に関して十分議論することができず、大会や全学連について疑問の残る点もありました。今回の大会の内容は『全学連白書 vol. 2』を通じて学生に報告しました。

この全学連に関して、学生が十分に考え、意見を発することができるようにするために、学生自治会と全学連とのこれまでの経緯や全学連についての情報を載せた冊子『全学連白書 vol. 2』を作成し、全学生に配布するとともに全学連に関するアンケートを実施し、469 枚を集めました。

・これからの活動

“これまでの活動”でも述べたとおり、学生から全学連についての意見を集めるためにアンケートを実施しました。このアンケートに寄せられた全学連に関する疑問を解消できるように、引き続き全学連の活動に参加し、全学連について情報収集、発信を行っていきます。また、アンケートに寄せられた学生自治会への意見に対する見解を『NASCA』などを通じて発信していきます。その上で全学連についての意見を再び学生から集め、全学連への加盟について検討していきます。

【工学部教授会執行部との話し合い】

・これまでの活動

平成 17 年度の法人化とともに、工学研究科長選挙における学生投票制度が廃止されたことによって、学生の意見が工学部の運営に反映される機会が失われることとなりました。そこで、学生自治会は廃止された学生投票制度の代わりに、工学部の運営に学生が関われる方法を模索するために、工学部教授会執行部との話し合いを行ってきました。

学生自治会は、昨年 10 月に行った話し合いにおいて、学生が教員を身近に感じることで教員と情報や意見交換を行えるように、工学部の各学科の研究室を学生に開放する日を設定することを提案しましたが、「研究室の開放日を設定しても、本当に学生は来るのか」といった意見が教員から出たため、実現しませんでした。

・これからの活動

研究室開放日について教授会と話し合いを行ったところ、多くの研究室においてオフィスアワーを利用する学生が非常に少なく、研究室を訪れることを学生が敬遠している現状では、研究室開放日を設定しても学生は研究室を訪れないのではないかと、との意見をいただきました。また、多くの教員は日頃から学生が研究室を訪れることを歓迎しているにも関わらず、研究室開放日を設定することで、開放日以外の日に研究室を訪れることを学生は余計に敬遠するのではないかと、との意見もいただきました。これからは、これらの意見を踏まえ、学生が気軽に研究室を訪れ、日頃から抱く意見を直接教員に伝えられるようにするために、教員と学生の距離を縮める方法を模索していきます。

【生命環境科学部自主入学式】

・これまでの活動

生命環境科学部では、4月2日（水）に「農学部、生命環境科学部全体で新入生を歓迎し、新入生が新入生同士や上回生と親睦を深めるうちに、大学と自分の学科についての知識と好奇心を高め、充実した大学生活を送れるようにする」ことを目的に、「生命環境科学部自主入学式」を行いました。

内容としては、上回生や院生が講義などの大学生活についての体験談を語ることで、新入生が感じているであろう疑問や不安を解消してもらうことを目的に「体験談紹介」を行いました。また、去年は研究室の見学を行いました。参加者からは「そもそも研究室が何なのかが分からない」という声もあったため、研究室の概要を知ってもらい、研究室に親しみを持ってもらえるように「研究室総論」を行いました。「研究室総論」では、学科の代表として1つの研究室の学生に、研究室についての全体的な説明や研究室の様子などを図や写真を交えて講義形式で説明を行っていただきました。その後の「立食パーティー」では、新入生同士や上回生との交流が行われました。

当日の参加者は、新入生137名、チューターとして参加した上回生63名と、合計で過去最高人数となり、大変盛り上がりました。感想文用紙には「学科の授業の内容やこれからどんなことをするのか知ることができて良かった」、「他の学生との交遊を深められてよかった」などの感想が寄せられ、新入生にとってとても好評なものとなりました。しかし、研究室総論では、学科全体の研究室の話をするにも、1つの研究室だけでは情報に偏りが生じてしまうといった問題点も挙がりました。今後は、寄せられた意見を参考に活動を検討していきます。

【理学部府大ツアー2008】

・これまでの活動

理学部では研究室配属の前に履修しておくことが望ましい講義が1回生の前期から存在するため、1回生も研究室配属を視野に入れた受講申請が必要となります。そこで、3月28日（金）に、「研究室や大学内を回る中で、上回生、及び教員との交流を持ち、学科特有の情報を得ることで大学生活を良いものとする。また、新入生同士の交流の場を設けることで、新入生同士の情報交換のきっかけとする」ことを目的として、「理学部府大ツアー2008」という新入生歓迎企画を行いました。

当日は、研究室配属を視野に入れるために、教員の協力のもと実際に研究室を訪ね、上回生や教員と交流を行うとともに、理学部の学生が利用する学舎を見学しました。その後、学科ごとに分かれて新入生同士の交流と、上回生から学生生活の体験談を話していただきました。また、授業が始まってからでも役に立つものとして、理学部の教員の研究室を示した地図をまとめた冊子を作成し、参加した新入生に配布しました。

参加者は新入生47名、チューターとして参加した上回生8名の合計55名となりました。当日の感想文用紙には「学生生活のこととか研究内容とかを先輩から直接聞いて今後の参考になった」「研究室を実際に見せてもらえるのは非常に良かった」といった感想が寄せられました。しかし、参加人数が少なかったことや研究室を紹介する授業が行われる学科もあったため、教員からの協力が得がたかったことなどが、問題点として挙がりました。今後は、寄せられた意見を参考に活動を検討していきます。

【経済学部新入生歓迎冊子】

・これまでの活動

経済学部には、自分の興味のある専門分野を教員の下で深く学べる少人数編成のゼミナールがあり、1回生は基礎ゼミナールAという講義を、入学してすぐに履修申請しなければなりません。しかし、事前に与えられる情報は少なく、自分にあったゼミナールを考え、選択することは困難となっていたため、「情報が少ないことで興味のある分野が分からない基礎ゼミナールAや、新入生が期待と不安を持っているであろう学生生活の情報を載せた冊子を作り、新入生により良いスタートダッシュを切ってもらおう」ことを目的に、経済学部の新入生歓迎冊子を作成し、入学手続き時に配布することを予定していました。

しかし、今年度から基礎ゼミナールAの形式が変更され、従来の専門分野に分かれるものからマイクロ経済学入門の補講的な講義となりました。加えて、学生が担当の教員を選択することもできなくなったことで、活動によって達成すべき目的がなくなったため、この活動は行いませんでした。

【人間社会学部新聞】

・これまでの活動

人間社会学部は、大阪府立大学の再編統合によって新設された学部であり、進路など学部特有の情報が取得しにくい状態であるといえます。そこで学生自治会は、そのような学部特有の情報を発信することが必要であると考え、「より有意義な学生生活を送れるように、人間社会学部の学生に向けて、情報を必要な時期に合わせて提供する」ことを目的とした人間社会学部新聞『^{ジンジャーズ}人社's!』を作成し、人間社会学部の学生に配布しました。発行した『^{ジンジャーズ}人社's!』には、資格科目の時間割表や交流会の日程を掲載しました。

・これからの活動

人間社会学部は4年前に設立された学部であるため卒業生が存在せず、大学院への進学や就職など、進路に関する情報を学生が得ることが難しい状況でした。しかし、これからは4回生の進路が決定していき、進路に関する情報を得ることができるようになると考えます。また、その他にも、コース分けやゼミなどについて、教員によって学生に提供する情報量に差が存在します。そこで学生自治会は、引き続き『^{ジンジャーズ}人社's!』を作成し、進路に関する情報をはじめ、コース分けやゼミなどに関する様々な情報を人間社会学部の学生に提供していきます。

【交流会「人社の“わ”】

・これまでの活動

人間社会学部では、5月15日（木）に「人間社会学部の学生同士、また教員とも親睦を深める機会を設け、より良い学生生活につなげる」ことを目的に、「交流会『人社の“わ”』」を行いました。

内容としては、教員と学生数人の班に分かれて、簡単なゲームを行った後、教員8人にテーマに沿ったスピーチを行っていただきました。その後、スピーチの内容をもとに、班ごとにテーマトークを行いました。

会場は生協食堂の一部を借り、学生34人、教員14人が参加しました。感想文用紙には「聞いていてとても考えさせられた点が多々あって、とてもよかったです」、「教授のためになる話を参考に話がもり上がってよかった」といった感想が寄せられ、好評な交流会となりました。

開催の宣伝活動は、人間社会学部のガイダンスや『^{ジンジャーズ}人社's!』などにて行いました。しかし、参加人数が少なく学科が偏ってしまったこと、協力していただいた教員との連携がうまくできていなかったことなどが問題点として挙がりました。今後は、寄せられた意見を参考に活動を検討していきます。

3. おわりに

学生は教職員と同じく大学の構成員であり、より良い学生生活を実現するためには、学生が積極的に声を上げる必要があります。たとえ学生一人一人の力が弱く、できることが限られていても、学生全員で協力することで大きな力となり、一人だけでは対処できない問題も解決することができます。しかし、自治会活動への参加状況を見ると、学生の自治会活動に対する興味が高いとは言えません。学生のみなさんにより自治会活動に興味を持ってもらい、参加してもらえるように、引き続き全力で活動していきます。みなさんも、より良い学生生活を実現するために、積極的に声を発し、今まで以上に学生自治会とともに活動していきましょう。